

「ある家族」の物語 「dear my family」シリーズ第二弾
新 TVCM 「dear my family 2015」篇 完成
平成27年3月31日(火)より全国にて放映開始



『dear my family 2015』篇 (60秒、30秒)

住友生命保険相互会社(社長 橋本雅博)は、新TVCM「dear my family 2015」篇を、平成27年3月31日(火)より全国で放送いたします。本CMは当社提供番組にて順次放映していく予定です。

■ CM企画意図

「大切なご家族を失うこと」。生命保険事業の本質に関わることでありながら、これまで生命保険のCMで取り上げられることがほとんどなかったテーマに正面から向きあいました。

生命保険にご家族を失った悲しみをいやす力はありません。でも遺されたご家族の生活を守り、支えになることはできます。

実はこの「生命保険の意義」を表す一つの言葉が住友生命に伝わっています。昭和41年、当時の社長(故 新井正明)が新聞記者に「生命保険の意義を一言で表すと?」と問われて答えた「悲しみと共に貧しさが訪れないように」という言葉です。以来、この言葉は生命保険の意義・使命を表す言葉として住友生命の社内に脈々と受け継がれています。

今般この「使命」を、「家族の未来に、変わらない毎日があるために。」という現代的なメッセージに託して昨年放映した企業CM「dear my family」の第2弾「dear my family 2015」を制作しました。

本CMを通じて、あらためてお客さまがご家族への想いを深め、それを支える保険の大切さに気づいていただくきっかけになればと考えております。

* 「dear my family」: 第51回 ギャラクシー賞「CM部門 選奨」受賞

■ CMストーリー

ある家族の、ある一日の風景。
長女の結婚式の朝。出かける前の準備に追われる3人の家族。

次女：「ちょっと、準備できてんの？」
弟：「俺？俺いつでも行けるよ」
次女：「ビデオは？」
弟：「そこ」
次女：「まったく！あんた、式も披露宴もビデオ係なんだからね」
次女：「わかってるの？」
弟：「わかってるよ、でも飯は食うけどね」
母：「お姉ちゃん綺麗に撮るのよ」
弟：「本人次第でしょ、そこは」
母：「カメラマンの腕次第でしょう」
次女：「ねえ」

インターフォンがなる

次女：「来たんじゃない？タクシー。お母さん、先出てるね」
弟：「やべ、忘れ物！」
次女：「早く！」

3人が、それぞれ玄関へ。急いで靴を履きながら。

母：「お父さんは？」
次女：「あ、忘れた！」
母：「もう！」

母が小走りでリビングに戻ってくる。

母：「ごめんなさい」

母、棚に飾ってある小さな写真立てを手にとって。
急いでいるとは知りつつ、少しその写真を見つめる時間がある。
独り言のように、相手がいるように写真に話しかける。

母：「緊張してる？」

写真を持って、また玄関に。

母：「はい、お父さんお待たせ」
弟：「俺がお父さん持っていこうか？」
母：「ううん大丈夫、私がこうやって持つ」

玄関の向こうの音が漏れ聞こえながら、玄関が閉まっていく。誰もいないリビング。静寂。

そこにタイトルが浮かび上がります。
家族の未来に、変わらない毎日があるために。

